

# 自律学習eラーニングの英語学習と学習習慣に関する調査

宇佐美 彰規

(要旨) 大学生の授業外学習時間の少なさが問題として挙がる中で、eラーニングは学生の自学自習の時間確保を担う手段でもある。本稿では、初年次教育の一環として、eラーニングによる英語学習を一年間経験した学生を対象に、学習者の学習環境や学習計画性、そして教員の働きかけに関する質問紙調査を行なった。アンケートの結果を踏まえた上で、自律的に学ぶことができる学生を育てるeラーニングの可能性について考察する。

**キーワード** : eラーニング, 学習習慣, 学習計画, 自律学習

## 1 はじめに

ユニバーサル化が進んだ大学には、多様な個性と能力、そして様々な進学動機を持つ学生が入学している。その大学教育においては、教育の質の確保と共に、学生の学習時間を確保する取り組みが強く求められている。背景には、入学後の学生は、授業以外の学習時間が極めて少ないという実態がある。全国を対象に行われた大学生調査<sup>1)</sup>では、授業以外における1週間の平均学習時間について、24.4%の学生が「ほとんどしない」と回答し、続いて「1-5時間くらい」という回答が41.8%であった。また、全国大学生生活協同組合連合会<sup>2)</sup>が調査した学生の生活実態では、授業の予習・復習など1日の授業外学習時間は、文系学生が平均で28分、理系の学生が48分となっており、大学生の授業外の学習時間の少なさは明らかである。

こうした授業以外の学習時間を確保する対策として、これまでのレポート課題や授業の宿題だけではなく、eラーニングなど情報通信技術を活用している事例が増えている。eラーニングを学生に提供することに、三宮ら<sup>3)</sup>は授業補完の役割を求め、荒川ら<sup>4)</sup>の例では、授業理解や発展的学習を推進させるeラーニング教育を報告している。一方では、酒井<sup>5)</sup>はeラーニングなどを整備するだけで、学生は課外でも積極的に利用するであろうという期待に疑問を呈している。確かに、eラーニングという学習機会は、自律した学習意欲の高い学生にとって、時間と場所の選択が自由であるという利点がある。しかしながら、学習時間が少ないと指摘される大学生は、この自由な学習環境をどのように活用できるのであろうか。そこで、今回の調査は、初年次教育の一環として授業外に行われたオンラインの英語学習に対する学生の学習環境、学習習慣、そして教員の働きかけについて分析を試みたものである。

## 2 調査概要

文学部英語文化学科における初年次教育の一環として、大学1年生に課されるオンライン課題に「Mukogawa English Reader」がある。アメリカ留学を視野に入れ、英文読解力と異文化理解力を養い、大学4年間に通じる自主的な学習習慣の育成を目標とした授業外学習である。学生は、「Mukogawa English Reader」に掲載された英語課題文を読み、オンライン上の質問に答えを入力して、送信するという自主的課題である。学期中の毎週水曜午前10時30分から翌週水曜日0時(午前零時)までの1週間が、学生の解答期間となっている。

### (1) 調査対象

入学後の初年次教育(2016年4月から2017年1月)で、オンライン英語学習に取り組んだ1年生から2クラス(54名)を対象として質問紙調査(選択式・自由記述)を行った。質問紙調査は、1年間のeラーニングを終了した最終授業時に実施され、以下は質問項目である。

### (2) 質問紙調査

1. これまでに英語学習をオンラインで経験した経験がある。
  1. はい
  2. いいえ
2. Mukogawa English Readerを行うときは、学習時間を決めていた。
  1. 非常にそう思う
  2. そう思う
  3. そう思わない
  4. まったくそう思わない
3. Mukogawa English Readerを行うときは、事前に学習計画・手帳に設定していた。
  1. 非常にそう思う
  2. そう思う
  3. そう思わない
  4. まったくそう思わない
4. Mukogawa English Readerの学習時間は、不定期

だった。

1. 非常にそう思う    2. そう思う
  3. そう思わない    4. まったくそう思わない
5. あなたが Mukogawa English Reader を取り組む機器のうち、利用頻度を2位まで教えてください。
1. PC (自宅)    2. PC (大学施設内・図書館含む)
  3. スマートフォン    4. タブレット端末
  5. その他 ( )
6. あなたが Mukogawa English Reader を取り組む場所の利用頻度を2位まで教えてください。
1. 自宅    2. 図書館    3. 大学教室
  4. 学外 (カフェなど)
  5. 通学途中 (電車・バス・駅)    6. アルバイト先
7. Mukogawa English Reader をできなかった週があれば、その理由を教えてください (自由記述)
8. あなたは Mukogawa English Reader で学習する際に、教員のアドバイスや励ましが必要だと思いますか？
1. はい    2. いいえ
- 8-2. (理由があれば、自由記述)

### 3 結果

アンケート結果を集計し分析することで、今後の e ラーニング活用の参考になるようなデータが得られた。

#### (1) e ラーニングの経験について

図1は、これまでの e ラーニングの経験をたずねた回答である。オンライン上の英語学習を経験したことがある学生は、61%であった。6割以上の学生が何らかの形で e ラーニングによる英語学習の経験があると考えられる。

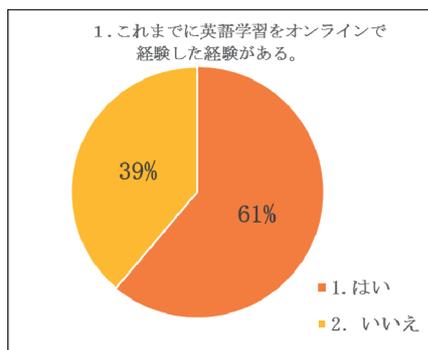


図1 これまでの e ラーニングの経験について

#### (2) e ラーニングに対する学習計画性

学生の e ラーニングに対する計画性の有無を示したものが、図2である。質問「2.Mukogawa English Reader を行うときは、学習時間を決めていた」とたずねたところ、83%の学生は学習時間を決めることはなかったと回答した。5人中4人の割合で、学習時間の見積もり

や時間配分の計画を立てることなく、e ラーニングに取り組んでいたことになる。

次に、授業外学習となる e ラーニング課題の学習計画について、「3.Mukogawa English Reader を行うときは、事前に学習計画・手帳に設定していた」(図2)という質問では、26%の学生は手帳などで事前に学習計画を設定していたと回答している。毎週の提出期限が明らかなカレンダー上で、学習時間や学習予定の設定は学生の裁量となるものだが、およそ4分の3の学生は、英語学習のスケジュールを立てることなく、課題を終えていたことになる。

同様に、計画的な学習に関する質問「4.Mukogawa English Reader の学習時間は不定期だった」(図2)でも、不定期な学習時間であったという学生が72%という高い割合を占めた。

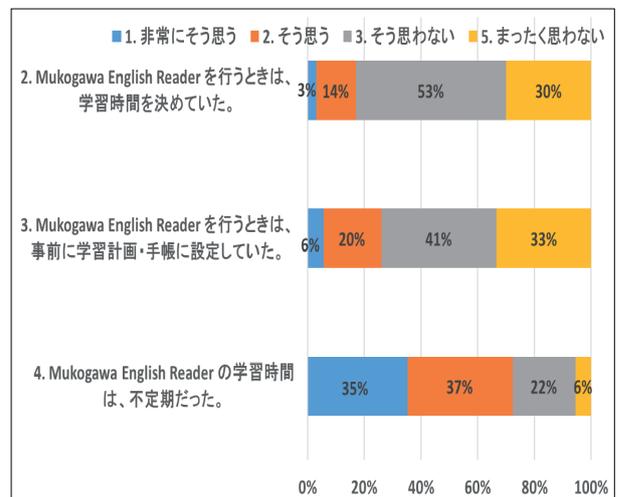


図2 e ラーニングの学習計画について

#### (3) e ラーニングに対する利用機器と学習場所

株式会社リクルートキャリア<sup>6)</sup>によると、大学生のスマートフォンの所持率は、96.0%となり、ノート型パソコンは、90.3%である。大学生の多くがスマートフォンやパソコンのいずれかを所有しており、様々な端末機器を通じて、e ラーニング教材にいつでも、どこでもアクセス可能な環境にある。現在のインターネット社会で学ぶ学生の学習手段や学習場所に関して特徴的な結果を述べる (図3参照)。

「5.あなたが Mukogawa English Reader を取り組む情報機器のうち、利用頻度を2位まで教えてください」という質問では、自宅でPC (パソコン) を利用する学生が、利用頻度1位の中で50%を占めていた。続いてスマートフォンを利用して e ラーニングに取り組んだ学生が、31%である。また、利用頻度2位の選択では、スマートフォンを使用する学生が40%となり、次に図

書館内のPC、そして自宅PCを利用する学生が、それぞれ28%となった。

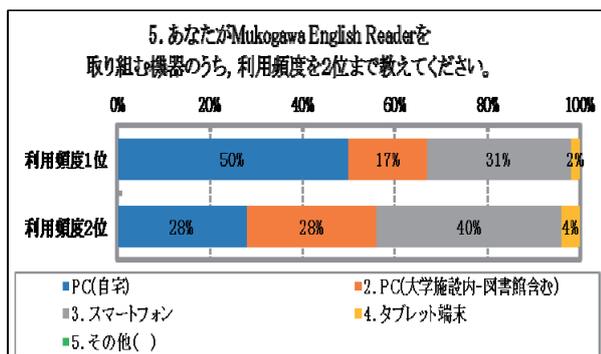


図3 eラーニングで利用した端末機器

さらに、質問「6.あなたが Mukogawa English Reader を取り組む場所の利用頻度 2 位まで教えてください」(図4)では、利用頻度1位の場所として、69%の学生が自宅を選んでいる。これは、先の質問5の結果に照らして考えると、自宅にてPC並びにスマートフォンを利用して、eラーニングに取り組んでいたことが推察される。また、利用頻度1位の中で、通学途中を選択した学生が2番目に多い割合となり、15%であった。他方、利用頻度2位の場所としては、図書館を利用していた学生が35%、次いで大学内教室で取り組む学生が27%いた。

これらは、図書館内に設置されたPCや座席でスマートフォンを利用して課題に取り組んでいたと考えられる。なお少数派であるが、アルバイト先でもeラーニングに取り組んだ学生が2%あったということは、どこでも利用可能となるeラーニングのメリットがここにあることを示唆しているのではないだろうか。

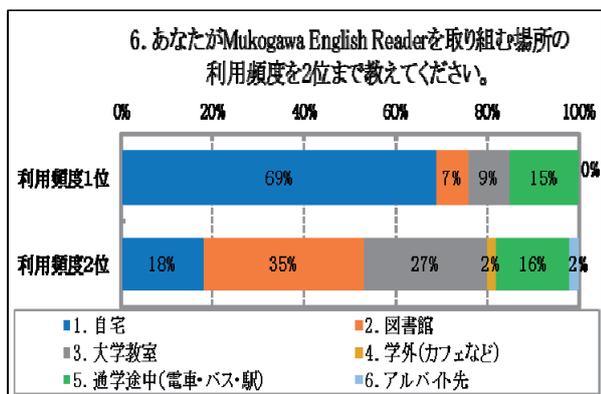


図4 eラーニングに取り組んだ場所

(4) 学生の課題未提出について

「7. Mukogawa English Reader をできなかった週があれば、理由を教えてください」(自由記述)に対して

は、「忘れていた」という回答が9件、「曜日を間違えていた」、「他の課題との両立が難しかった」という記述が共に1件ずつあった(表1参照)。これまでの学習計画性に関する回答を踏まえると、日々の生活時間の中で、eラーニングの当事者となる学生自身の時間管理の問題に関係しているのではないかと考えられる。

表1 自由筆記のコメント

コメント抽出	人数
① 忘れていた	9
② 曜日を間違えていて提出できなかった。	1
③ 日にちが迫っており、他の課題との両立が難しかった。	1

(5) eラーニングに対する教員の関与

最後に教員の関わりについて、「8.あなたは Mukogawa English Reader で学習する際に、教員のアドバイスや励ましが必要だと思いますか」(図5)という質問には、学習支援を行うことが、毎週の取り組みに影響するのではないかと予期されたが、81%の学生が教員のアドバイスや励ましを必要としないと回答している。そして、約2割の学生が教員からの働きかけが必要と答える結果となった。

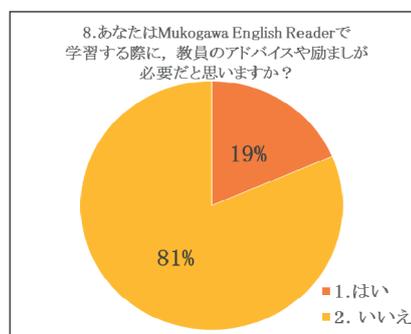


図5 eラーニングへの教員の働きかけについて

この質問8に対する理由の記述は、以下表2である。「自分で進んでやるものだから」(表2①)というコメントに代表されるように1年間の学習経験を通じて、12名の学生は、eラーニングを自分たちで行うべき課題と捉えていることが明らかになった。また、同表2②に見られるように、英語力のある学生にとっては、アドバイスや教員の関与を必要と感ずておらず、能力に見合った課題であったのかも検討の必要性がある。

表2 質問8-2 自由記述コメント

コメント抽出	人数
① 自力でやるものだから。自分自身の取り組みであり、特に必要ない。	12
② アドバイスが必要なほど難しくない。励ましが必要なほど大変ではない。	5
③ 励まされたところで解けないものは解けない。	3

一方で、教員の励ましやアドバイスが学習意欲に影響すると答えたコメントが8件であった。(表3)

表3 質問8-2 自由記述コメント

コメント抽出	人数
① 意欲がわくから。やる気が多少出る。	8

#### 4 考察

本稿では、初年次教育の一環である英語読解のeラーニングに対する学生の意識調査と結果を述べてきた。インターネット社会の現代は、PCやスマートフォンの高い所有率もあって、学生はいつでも、どこでもオンライン上の教材にアクセスすることができる。それは、自宅や図書館のパソコンで、さらにはスマートフォンを利用して通学途中で課題に取り組んだ学生の回答から明らかとなった。しかしながら、毎週のeラーニング課題に対しては、事前に学習予定をたて、自主学習を実行していた学生は、4人に1人の割合に過ぎなかった。結果的に、この無計画性が、課題未提出の理由として「忘れていた」「曜日を間違えていた」と答えた10件の記述コメントに関係していると推察できる。日々の学習習慣の育成には、小野<sup>7)</sup>は学習者が自ら学んでいく過程において、励ましや叱咤など、個々の学習者に応じた支援が必要であると述べている。eラーニングが学生の自主性に委ねられている現状では、授業外学習の手段の提供だけではなく、学生が自ら管理していく学習計画の作成、それを遂行していく実践へのサポートが必要であることが調査結果から明らかになった。

#### 5 まとめ

本学の教育目標の一つは、「自ら課題を見つけることができ、自主的・積極的に勉学する態度や習慣」の育成である。今回の調査結果から考えると、教員の励ましやアドバイスを必要としない学生が、80%以上であったが、学習計画のスキルやその有効性を学生に具体

的に教示し、自ら学習に向かう姿勢とタイムマネジメントにも触れることができれば、eラーニングは主体的かつ自らを律する学習習慣の育成につながる可能性がある。すなわち、eラーニングを授業以外の学習量確保の手段として捉えるだけでなく、学生が場所と時間を自らによって選択決定する学習過程にも意識を向ける必要がある。今回の調査結果は、2016年度1年生54名の限られた結果であり、調査結果の一般化には慎重でなければならない。今後はさらにデータを収集し、eラーニング実行過程の学習計画や時間管理の意識付けを取り入れた初年次教育の具体的な実施と調査を進めていきたい。

#### 参考文献

- (1) ベネッセ総合教育研究所, 「平成17年度経済産業省委託調査 進路選択に関する振り返り調査-大学生を対象として-」, pp.39-40, ベネッセホールディングス, 2005 (<http://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3170> 参照日 2017年2月26日)
- (2) 全国大学生生活協同組合連合会 『第52回大学生生活実態調査の概要報告』 全国大学生生活協同組合連合会, 2017 (<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html> 参照日 2017年3月5日)
- (3) 三宮郁子, 古屋あい子, 入沢由美, ほか. 「e-learningを用いた授業外学習3年間の実践報告」 玉川大学文学部紀要, 55, pp.1-30, 55, 2014
- (4) 荒川雅裕, 植木泰博, 冬木正彦. 「授業支援型e-LearningシステムCEASを活用した自発学習促進スパイラル教育法」, 日本教育工学会論文誌 28 (4) pp.311-321, 2004
- (5) 酒井志延 「英語教育における自律した学習者養成とICT」, 『メディア教育研究』5(1), pp.45-56, 2008
- (6) 株式会社リクルートキャリア (2016) 「大学生の実態調査2016」 -大学生の生活実態編-, pp.1-21.株式会社リクルートキャリア, 2016. ([https://www.recruitcareer.co.jp/news/2016/02/10/20160210\\_01.pdf](https://www.recruitcareer.co.jp/news/2016/02/10/20160210_01.pdf)参照日 3月1日)
- (7) 小野博 「内外のリメディア教育におけるICTの活用の現状と展望」, 『メディア教育研究』5 (1), pp.1-10, 2013